

NEWSLETTER

第27号

2024年1月12日発行

2023年度の事業内容

第35回 看護研究継続セミナー

日時：2023年11月25日(土)
13:30~17:00 オンライン

第37回 近畿・北陸地方会学術集会

日時：2024年3月16日(土)

一般社団法人 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会

世話人代表 若村 智子
京都大学大学院医学研究科
人間健康科学系専攻

TEL: 075-751-3974

E-mail: wakamura.tomoko.5v
@kyoto-u.ac.jp

本地方会に関するお問い合わせ・
ご連絡は上記までお願いします

2024年1月 世話人代表挨拶

謹んで、新年のおよこびを申し上げます。元旦の能登半島を中心とした地域の震災で、被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

元旦に飛び込んできたニュースは、昨日までの当たり前の生活が、約束されていないことを、私たちに再び教えてくれました。看護の基本は、病む人の生活を支えることです。しかし、災害では、支える看護師も、そこに住む被災者になり得ます。療養上の世話も、看護教育も、理想のように行えず、不完全なものにならざるを得ません。すべての人にとって、このようにあるべきと思う理想的なケアが、受けられる状況ではありません。満たされるケアとは何かを考えることが、ケアの将来を考える上で、求められています。

一方で、ウクライナとロシア、イスラエルとハマスの戦争を代表として、世界では、人が人を殺し合うことを正当化する状態も続いています。戦争も、私たちの生活の日常性を、保てないことを意味します。科学技術が進歩し、インターネットで世界が繋がっている社会で、このような戦争がまさか起きるとは、誰もが想像していなかったことです。日本に住む私たちの生活にも、その影響は、さまざまな形で波及しています。そのような中でも、SDGsを掲げ、地球温暖化による気候変動の影響をいかに抑制できるか、多様化する社会を認めあうため、それぞれの固有の概念をいかに捨て去るか、などが求められています。でもその前に、平和であることの重大さを、まざまざと知った一年でした。

しかし、コロナで、静まりかえった社会も、元の喧噪に戻りつつあることを実感する今、わたしたちは、止まった時が、再び動くということも実感として理解しています。この数年間で、私たちが、身をもって感じた感覚は、看護を考える上でとても得がたいことだったと思います。与えられるケア、受けられるケアとは何かを、あらためて考えてみませんか。被災地の復興が進み、各地の紛争が鎮まり、世界に平和が訪れますように、祈りたいと思います。

2024年1月
若村智子

第37回 近畿・北陸地方会学術集会

【日時】2024年3月16日(土)10時~16時30分

【場所】敦賀市立看護大学(福井県敦賀市木崎78号2番地の1)

【テーマ】「実践を支える看護研究—不確かな時代をしなやかに生きる—」

学術集会長:伊部 亜希、企画実行委員長:河合 正成(敦賀市立看護大学)

【プログラム】

特別講演:「看護とユーモア」柏木 哲夫氏

教育講演:「ダイバシティ&インクルージョンを見据えて~文化を考慮した看護~」内木 美恵氏

シンポジウム:「自律した看護師育成のための看護基礎教育とは」根岸 まゆみ氏・石井 豊恵氏・村田 美穂氏

交流集会:「オープングダイアログ入門」石橋 佐枝子氏

【事前参加申込期間】11月1日(水)~2024年3月1日(金) <参加費:会員> (事前申込)4,000円, (当日参加)5,000円

【演題登録締切】2024年1月29日(月)

詳細につきましては、HPをご参照ください➡

対面開催



“自分たちのまちづくり”に「看護」の力を

上木礼子(福井県立大学)

11月25日にオンラインで開催した第36回近畿・北陸地方会看護研究セミナーでは「看護の役割を考える～地域包括ケアの充実に向けて～」と題し、南砺市民病院 看護師長の野原良子先生を講師に迎え講演していただきました。南砺市民病院では、南砺市が掲げる「幸せに生涯を過ごせる協働」をはじめとした5つのまちづくり規範とリンクした地域活動を実践しており、その実際が紹介されました。

野原先生達は少子高齢化が加速する地域で「本人の意向を尊重したまちづくり」を掲げ、緩和ケア認定看護師として地域活動・地域連携へ多様なチャンネルで関わっており、特に介護予防教室のような予防医療だけではなく終末期医療への意識醸成にも積極的に取り組んでいたのが印象的でした。地元CTV局と共同で“人生会議”ドラマを作成し広く発信するほか、院内の臨床倫理委員会活動や事例検討会の充実により、倫理的問題にもきちんと向き合える人材を育成しており、南砺市の目指す「自宅で穏やかな死を迎えられる」まちづくりへ、病院職員は専門職集団としてのリソースの役割をはたしていることが理解できました。

健康教育の出前講座など病院から地域に出る活動もすでに軌道に乗っており、緩和ケアの取り組みで看取りの場に僧侶が参加する看仏連携など、住民の価値観に寄り添い地域の力を活かした終末期医療の事例も紹介されました。地域の力を引き出しながらまちづくりに「看護」の専門性をシームレスに溶け込ませる活動は、これからの人口減少社会において、住民が主体的に暮らしやすい社会を作るモデルになると感じます。“地域包括ケア”の土壌を養分豊かなものにするためには、医療者も積極的に地域へ出て住民と協働する姿勢が必要でしょう。

オーディエンスにはコミュニティナースとして活動する看護職も参加しており、講演後の意見交換では地域づくりと看護の専門性をどのように融合させていくのか、将来のビジョンについても話し合いがされる有意義な時間になりました。

日本看護研究学会
第36回 近畿・北陸地方会看護研究セミナー 2023 NR

**看護の役割を考える
地域包括ケアの充実に向けて**

在宅支援の充実と在宅医療の発展は、円滑な地域包括ケアの構築として重要ですが、その連携の場において様々な課題を抱えています。今回は、緩和ケアの在宅支援の実例を交えて課題を具体的に共有し、地域包括ケアの充実に向けて意見交換をはかり、課題解決に繋げたいと思います。

Web開催
2023年11月25日(土) 13:30-17:00
オンライン開催(Zoome利用)
参加費無料(申し込みはQRコードから)

13:30~15:00 講演
[講師] 野原良子 南砺市民病院 看護部長・緩和ケア認定看護師
15:00~17:00 懇話会・研究相談会
[参加] 近畿・北陸地方会各所属の看護研究員(有志者歓迎)
参加費：無料(非会員可) 定員：90名

■ 申込方法：上記QRコードもしくは下記URLからお申し込みください。
2023.11.15(月)17:00まで
<https://forms.gle/3H36G0U3JN7L2Y98>

■ ホームページ：[https://www.ponac.jp/district/kinki-hokushin/](https://www.ponac.jp/district/kinki-hokuriku-hokushin/)
■ 問い合わせ先：ponac123@ponac.jp 上木礼子(山形県立大学)

近畿・北陸地方会セミナー委員
＜近畿地区＞
新野美由(京都府立医科大学) 西原真子(奈良県立医科大学)
＜北陸地区＞
栗山佳(福井県立大学) 上木礼子(福井県立大学) 清水山梨(山形県立大学)

日本看護研究学会
第36回 近畿・北陸地方会看護研究セミナー 2023

**看護の役割を考える
地域包括ケアの充実に向けて**

2023年11月25日(土)
南砺市民病院
野原 良子

自分が大切にしてきたこと
最期までどのように生きたいか
話しあう対話

次期(2024年4月1日～2026年3月31日)世話人代表の選挙を実施しました

投票期間 2023年12月8日(金)～2024年1月9日
方法 学会ホームページの「会員マイページ」からのWeb投票



リレーブログのご案内



2013年より運用が始まり、看護研究に関する様々な内容を掲載してまいりました。リレーブログをもっと身近に感じて頂けるように、近畿・北陸地方会では、近畿・北陸地区の会員の皆様の話題提供をお願いしています。研究テーマや看護研究に関連する研修会の案内などを発信することで、会員の情報共有や交流の場となればと考えております。

日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 広報委員会